

教育課程編成委員会

令和3年度第1回委員会 議事録

1. 日時および場所

日 時：令和3年10月5日(木) 18:00～20:00

場 所：修成建設専門学校 161 教室

2. 出席者

西濱浩次、鍵山昌信、田中義久、辻裕樹、井上久実、小池祐也、佐藤榮一、坂入喜代枝、市岡武、倉方俊輔、中村裕輔（欠席）、小松原学、壺山和憲、小島章、富山毅、槇村吉高、村松雄一郎、森本和真、大上哲男（欠席）

山下裕貴、堤下隆司、見邨佳朗、谷川博康、増田和浩、辰井菜緒、鍵谷啓太、釜友知與子、山本順也、野瀬孝男、明石祥子、上杉敬史 ※ 敬称略

3. 配布資料

資料 1-1：令和3年度第1回委員会 議事次第

資料 1-2：委員一覧(2021 年度)

資料 1-3：建築学科、土木工学科、建設エンジニアリング学科、ガーデンデザイン学科、カリキュラム改定説明書類一式

資料 1-4：「卒業展 2022」表彰作品審査依頼状

4. 議事次第

(1) 第一部 全体会議 pm18:00-18:10

堤下委員、山下委員より開会の挨拶ののち、堤下委員より議事の説明があった。

- ・分野別分科会のお知らせ
- ・今年度前期の状況報告：学生の在籍状況、コロナ禍への学校対応、SDGs 教育に関する報告
- ・委員の紹介

各学科委員より本年度前期の学科総括説明があった。

学生相談室長より、学生動向についての報告があった。

事務局進路係より、2020 年度および 2021 年度の進路動向と取り組みについての報告があった。

堤下委員より建築分野、土木造園分野に分かれて会議を行う旨の説明があり、第一部は終了した。

(2-1) 第二部 分野別分科会（建築分野） pm18:15-19:50

司会進行の見邨委員より議事の説明があった。

- ・カリキュラム改定を行なう学科委員より主旨説明
- ・各委員より質疑

・各委員より総括

1. 建築学科科長、増田委員より学科カリキュラム改定の主旨説明

各委員より下記の意見があった。

- ・都市部の建設ストック活用が重要になってきている。柔軟な対応力やコミュニケーション能力を育てる学問も必要と感じる。
- ・これからの学生にデジタルスキルは当然必要、また SDGs への視点も重要、社会への感性や人間力を育んでほしい。
- ・木質化やカーボンニュートラルに関する知識も大事だが、それらを自分で理解し考えることから、社会に対して興味を持って学ぶちからが重要。
- ・リニューアルやリノベーションの実務では遵法が非常に大事になってきている。
- ・関係者の要望をヒアリングし、デザインをプレゼンテーションする能力育成も必要である。
- ・プレゼンテーション能力の向上について、新カリキュラムでの検討点は？
- ・ワークショップ授業の内容について教えて欲しい。
- ・実際に学科の設計課題でストック活用やリノベーション、リニューアル課題は行なっているかを教えて欲しい。
- ・積算の授業時間が充実していることは良いと思う。細かいところも大事だが、概算など大きな視点で積算の楽しさを伝えてほしい。

増田委員、辰井委員より上記意見に対する説明があった。

- ・演習授業などでは実務者講師による授業展開を行なっている。また設計塾なども活用し、今後も柔軟な対応をとって行けるよう努力したい。
- ・自分の意見をきちんとまとめて表現することについては、担任の指導を含めて様々な授業の中で行なって行きたい。
- ・ワークショップでは鉄筋やコンクリート型枠の施工などの実際を学ぶ授業を行なっている。
- ・建築設計製図の授業課題でスケルトン(S造)をテーマに各自が設計し、指導を行なっている。

玉井委員、鍵谷委員より上記意見に対する建築系他学科での取り組みの説明があった。

山本委員より、施工を目指す学生に向けての教育内容の説明があった。

- ・住環境リノベーション学科では教室の改修工事を通じて、学びを実践的に行なっている。また木造キットハウス建方を通じて木構造を学び理解し、リノベーション等にも対応できる人材育成を行なっている。

各委員より建築系学科の教育課程について総括する意見があった。

- ・教育が多様化してきているなか 2 年間ですべてを教えることの難しさは理解しており、設計塾などでの対応もある。しかし、カリキュラムを新しくしても結局教員の能力もある。設計はチャレンジして次へつなげるプロセスの連続なので、1 年生からオリジナルの課題を行なう必要もある。施工特論については選択科目だからこそできる内容を作ってもらいたい。例えば現場における倫理観や実際の施工現場における取組。図学について説明が欲しい。

- ・教えることも大事、しかし発表の場も大事だと思う。選抜されて発表する場面を設けることが、個々の力を伸ばすのではないかと考える。

(2-2) 第二部 分野別分科会（土木造園分野） pm18:15-19:50

1. 土木工学科・建設エンジニア学科科長、野瀬委員より学科カリキュラム改定の主旨説明

- ・土木工学科では、「人材教育」の一環として、ビジネス能力検定ジョブパスを活用し、ビジネス知識や社会人のマナーとして必要な基礎を学び、またチームで働くためのスキルやマインドを定着させるため、1年時の必修科目として「建設ビジネス学Ⅰ」を、2年時の選択科目として「建設ビジネス学Ⅱ」を設けた。また、1年生時に集中している計算科目を2年生時も実施することにより、学習内容のバランスを良くすることを目的として、水理学と土質力学については1年・2年通してそれぞれ半期ずつ学習するとともに、積算を2年時必修科目に、構造力学Ⅱ・橋梁工学を2年時の通年選択科目にするなど、1年時と2年時の科目時間数の平均化をおこなった。
- ・建設エンジニア学科では、「i-Construction」推進に向けICT（情報通信技術）を用いた「情報化施工」を体験し、建設DXを活用し、言説現場での生産性向上に対応できる技術者を養成するために、新設科目（建設概論、施工管理演習Ⅰ、安全教育実習Ⅱ、建築総論、社会基盤など）を増やし、基礎知識の充実を図りたい。

カリキュラム改正の主旨説明を受けて、各委員から次のような意見が出された。

- ・企業の視点からは、積算を必修科目として行うことは良いことだと感じた。積算は施工管理の実務面で有効であり、各工事の単価や値頃感を養うことで、即戦力として期待できる人材育成につながっていると考えられる。基礎から実務につながるように指導してほしい。
- ・専門学校においては基本を身につけ、即戦力につながる人材育成をお願いしたい。近年、図面を読みとれない学生が多くなっているため、実習体験などを通して、各科目のつながりを見て学んでほしい。実務につながるように、基本的なことを身につけてほしい。
- ・スマホでLINEは使えるが、メールが苦手な若者が多い。実務では、社内・社外、顧客ともすべてビジネスメールを使用するため、ビジネスメールの活用についてもしっかり学んでほしい。また若者は、情報セキュリティについて危機感が乏しいので、ぜひ学ぶ機会を持ってほしい。
- ・次年度からは全新入生がノートPCを持つことになるので、自ら調べ学習を行うなど、ICTを活用した教育を進める。写真や動画教材の活用機会を設けることで、学生の理解を深めていきたい。

2. ガーデンデザイン学科科長、堤下委員より学科カリキュラム改定の主旨説明

- ・現行カリキュラムの構成は造園施工管理技術検定・造園技能検定受験資格を備えており、住宅庭園や都市公園・街路樹植栽等の計画・施工・管理の技能・知識習得に不足はないが、「造園は環境を整える仕事」であることを再認識しカリキュラムの見直しを行う。そこで新たに、造園植物Ⅱ、造園施工計画学、都市計画Ⅰ・Ⅱ、建設概論、緑地空間表現法などの新設科目を設け、土木

系や建築系の学科と連携し環境に優しい建設業の未来に向け行動できる人材の育成をめざす。

カリキュラム改正の主旨説明を受けて、各委員から次のような意見が出された。

- ・施工のみ、設計のみという得意分野にしか興味を示さない学生が多いように感じている。学校では広く学べる機会があることを活かし、苦手なことにも挑戦させるような教育が必要である。苦手分野を学び知ること、将来の伸びしろをのばして欲しい。
- ・造園施工管理技術検定試験や造園技能検定への取り組みはすばらしい。同時に、感性を磨けるような学びもお願いしたい。造園は図面通りにはいかず、現場で判断しながら作業を行うため、感性が求められる。基本を学びながらも感性を養うような教育が大切と考える。
- ・数学を敬遠する傾向が強いと聞いて、実務では、材料、施工、測量などにおいて計算力は必須である。数学は難しいが、好きなものだけでなく苦手な科目にも挑戦し、自己都合で決めつけたりせずにバランスよく学んでほしい。学生の可能性を拡げる教育をお願いしたい。

(3) 第三部 全体連絡 pm19:55-20:00

堤下委員より卒業展 2022 の審査員依頼及び、第二回教育課程編成委員会開催予定の連絡があった。

堤下委員より建設業界サポート&キャリアプログラムについての話題紹介があった。

堤下委員より閉会の挨拶があった。

(4) 次回開催日時等の決定

日 時：令和4年2月19日(土)15:00 から

場 所：修成建設専門学校

内 容：「卒業展 2022」審査

カリキュラム改定学科の進捗状況

令和3年度各学科カリキュラム実施報告

以上

(文責；鍵谷、谷川)